

# 2018年度・公式規則変更内容・決定報

(全 18 頁)

公益社団法人日本アメリカンフットボール協会  
競技規則委員会



アメリカンフットボール公式規則を以下のように変更します。

- [1] 2018年度・公式規則変更主要項目の解説は、今年の公式規則変更を解説したものです。
  - [2] 2018年度・主な編集上の変更項目の解説は、今年的主要な編集上の変更を解説したものです。
  - [3] 2018年度・公式規則変更は、主要変更項目および主な編集上の変更に関わる条文を掲載したものです。
- この公式規則変更は2018年秋季公式戦より適用します。

## [1]2018年度・公式規則変更主要項目の解説

2018年度の公式規則変更主要項目は、次のとおりです。なお、各々の解説の最後の( )内の英数字は、この変更が行われる公式規則の、2018～2019の公式規則・公式規則解説書における「篇一章一条」を表します。

### (1) フィールド上の競技団体およびチーム名の装飾についての規定の追加

- ☆ 従来、フィールド上の装飾について、両ゴール ラインと両サイドラインの内側で、ラインを隠してはいけない等の規定があった。
- ★ 本年より、フィールド上の競技団体のロゴ、チームの名前およびロゴの装飾については、従来の規定に加え、50 ヤード ラインを中心としたものが1つと、それよりも小さな装飾がまわりに最大 4 ケ所まで許されるという規定が追加される。 (1-2-1-f 追加)

### (2) 施設の命名権を有している商業組織体の宣伝広告についての規定の変更

- ☆ 従来、商業組織体が施設の命名権を保有している場合、商業組織体の名称を 2 ケ所まで描くことが許されていたが、商業ロゴは認められていなかった。
- ★ 本年より、商業組織体または個人が施設の命名権を保有している場合、商業組織体または個人の名称あるいは商業ロゴをフィールドの中心以外の場所に最大 2 ケ所まで描くことが許される。これは上記(1)の 4 ケ所の装飾の内の 2 ケ所としてカウントされる。 (1-2-1-h 変更)

### (3) ジャージに装着可能な内容の追加

- ★ 本年より、プレーヤー名、チーム名等に加えて、チームまたは競技団体のロゴの一部に卒業認定または学術認定の印を加えること、およびチーム キャプテンを示すための「C」の文字をジャージに装着することができる。 (1-4-5-a-2 追加)

#### (4) 許可されるフィールド上の装備(審判員のカメラ)の変更

☆ 従来、審判員のキャップに装着できるカメラはアンパイヤだけに許されていた。

★ 本年より、運営団体及び参加チームの事前承認により、いかなる審判員も音声装置のないカメラをキャップに取り付けることが許される。 (1-4-11-c 変更)

#### (5) タッチダウンおよびキックオフ後のプレー クロックの規定の変更

☆ 従来、すべての得点の後およびすべてのキックのダウンの後は、レフリーのシグナルによって 25 秒のプレー クロックの計時が開始された。

★ 本年より、6 点のタッチダウンの後およびフリー キックの後は、そのダウン終了時に 40 秒のプレー クロックの計時を開始する。他の得点の後、他のキックのダウンの後およびトライのダウンの後は、従来どおりである。なお、次にボールをプレーに移すチームは、ボールの位置を指定することができる。ボールの位置の指定に関する規定は、主な編集上の変更項目(6)、(8)、(10)および(11)を参照のこと。

(3-2-4-c 変更)

#### (6) キックオフ時のフェア キャッチの規定の変更

☆ 従来、フィールド オブ プレーでフェア キャッチが成立した場合、その地点から B チームの攻撃となっていた。

★ 本年より、フリー キックにおいて、B チームの自陣 25 ヤードより手前(ゴール ライン側)でフェア キャッチが成立した場合、次のプレーは B チームの 25 ヤード ライン上から開始される。 (6-5-1-a 追加)

#### (7) トライの機会の規定の変更

☆ 従来、タッチダウンとなったダウン中に第 4 節が終了し、トライの結果が試合の勝敗に影響しない場合(タッチダウン後の得点の差が 3 点以上)、トライは行われなかったことが規定されていた。

★ 本年より上記に加え、タッチダウンとなったダウン中に第 4 節が終了し、得点したチームのリードが 2 点以下の場合、そのチームがトライを実施しないことを選択できる。 (8-3-2-a 追加)

#### (8) 腰より下へのブロックの規定の変更

☆ 従来、キックを除くスクリメージ ダウンにおける、チーム確保変更前の A チームのプレーヤーで、タックル ボックス内のラインマン、およびタックル ボックス内で静止している等の条件を満たすバックは、ある条件のもとで相手の横方向からの腰より下へのブロックが許される等が規定されていた。

★ 本年より、キックを除くスクリメージ ダウンにおける、チーム確保変更前の A チームのプレーヤーによる腰より下へのブロックの規定は以下のとおりとなる。

最初の位置が完全にタックル ボックスの中に入っている A チームのラインマンのみが、ボールがタックル ボックスの外に出るまでの間、タックルボックスの中で、最初の接触が相手の正面の方向からだけでなく、相手の横の方向からの腰より下へのブロックが許される。他のすべての A チームのプレーヤー(前記の条件を満たさないラインマンを含む)は、最初の接触が相手の正面の方向(時計の文字盤の 10 時から 2 時の範囲)からの腰より下へのブロックのみが許される。

ニュートラルゾーンを5ヤード以上越えた地点では、すべてのAチームのプレーヤーによる腰より下へのブロックは反則となる。

スナップ時にタックルボックスの外側にいるAチームのプレーヤー、スナップ時にモーションしているAチームのプレーヤー、あるいはスナップ後にタックルボックスの外に出たAチームのプレーヤーによる、スナップ時のボールの方向に対する腰より下へのブロック(クラックバックブロック)は、ブロックした時のボールの位置に関係なく、反則となる。

自陣のエンドラインの方向への腰より下へのブロック(ピールバックブロック)に関する規定に変更はない(ボールがタックルボックスを出た後は反則である)。(9-1-6 変更)

### (9) リーピングの規定の明確化

☆ 従来、フィールドゴールあるいはパントをブロックしようとして、Bチームのプレーヤーが、相手を跳び越えようとジャンプすることが、リーピングの反則の条件として規定されていた。

★ 本年より、リーピングの反則となる規定が明確化され、相手のプレーヤーの身体のフレームを跳び越えようとジャンプすることが、リーピングの反則の条件として追記された。

フィールドゴール時に反則の対象となるBチームのプレーヤーや、パント時にリーピングの対象となる場所などの規定に変更はない。(9-1-11-b および c 変更)

### (10) フィールドゴール時のBチームの反則に対する罰則の規定の変更

☆ 従来、成功したフィールドゴールプレー中のBチームによる反則に対する罰則は、次のキックオフまたは超過節のサクシーディングスポットに持ち越すことができなかった。

★ 本年より、成功したフィールドゴールプレー中のBチームによるパーソナルファウルまたはスポーツマンらしくからぬ行為の反則に対する罰則は、従来の施行に加え、得点したチームの選択により、得点を得て次のキックオフまたは超過節のサクシーディングスポットで施行することができる。

(10-2-5-d 追加)

### (11) インスタントリプレー: 10秒減算となる規定の追加

☆ 従来、前後半の残り時間が1分未満の状況で、インスタントリプレーの結果により、10秒減算が行われるという規定はなかった。

★ 本年より、前後半の残り時間が1分未満の状況で、ボールがデッドとなり計時停止となったダウンにおいて、インスタントリプレーによってフィールドの判定が変更された結果、計時が停止されなくなった場合、レフリーは10秒減算を行い、レフリーのシグナルでゲームクロックの計時を開始する。いずれのチームも、チームタイムアウトを取ることで10秒減算を避けることができる。(12-3-6-c 新規)

### (12) インスタントリプレー: 遠隔地からのリプレー

☆ 従来、リプレーの場所は、プレスボックスの中と規定されていた。

★ 本年より、リプレーの場所は、プレスボックスの中に限らず、実験的な試みとして遠隔地でのリプレーが可能となる。他のリプレーに関わる要件に変更はない。(12-4-3-a 追加)

## [2]2018年度・主な編集上の変更項目の解説

2018年度・主な編集上の変更項目は、次のとおりです。なお、各々の解説の最後の( )内の英数字は、この変更が行われる公式規則の、2018～2019の公式規則・公式規則解説書における「篇一章一条」を表します。

### (1) チーム関係者の映像撮影者に対する制限事項

- ☆ 従来、チーム エリアに入ることができるビデオ撮影者は1名と規定されていたが、そのビデオ映像の使用に関する規定はなかった。
- ★ 本年より、チーム エリアに入ることができるビデオ撮影者によるビデオ映像は、その試合の生放送またはデジタル ストリーミング放送に使用してはならない。チーム エリアに入ることができるビデオ撮影者に関する規定に変更はない。 (1-4-11 追加)

### (2) コーチ用通話器、ヘッドセットおよび通信機器に関する規定

- ☆ 従来、試合前および試合中のコーチ用通話器は、公式規則の適用外であると規定されていた。
- ★ 本年より、コーチ用通話器等は公式規則の罰則の適用外であるが、試合の運営管理下において各チームが従うガイドライン(ヘッドセットの台数等)が規定された。 (1-4-12 変更)

### (3) A チームによるフォワード パスの定義の明確化

- ☆ 従来、フォワード パスの開始は、ボールをしっかりと保持している A チームのプレーヤーの手または腕の前方への意図的な動きと規定されていた。
- ★ 本年より、フォワード パスの開始は、ボールをしっかりと保持している A チームのプレーヤーの手のみ前方への意図的な動きと規定される。 (2-19-2 変更)

### (4) 前後半終了2分未満での計時に関する規則の明確化

- ☆ 従来、前後半終了 2 分以下で、得点が多いチーム(もし同点の場合はどちらかのチーム)の反則に対する罰則施行のためだけにゲーム クロックが停止したとき、被反則チームはスナップからの計時開始を選択することができた。
- ★ 本年より、前後半終了 2 分未満で、得点が多いチーム(もし同点の場合はどちらかのチーム)の反則に対する罰則施行のためにゲーム クロックが停止した時、同時に他の理由で計時が停止された場合でも、被反則チームはスナップからの計時開始を選択することができる。 (3-4-3 変更)

### (5) プレーヤーの支配下でないルース ボールのアウト オブ バウンズ

- ☆ 従来、フィールド ゴールの得点となったキックを除き、プレーヤーが支配していても、確保されていないボールが、アウト オブ バウンズのグラウンド、プレーヤー、試合の審判員、または他のいかなるものにも接触した場合に、アウト オブ バウンズとなった。
- ★ 本年より、フィールド ゴールの得点となったキックを除き、プレーヤーが支配しているボールが、アウト オブ バウンズのグラウンド、プレーヤー、試合の審判員、または他のいかなるものにも接触した場合

でも、アウト オブ バウンズとはならない。例えば、空中にいる A チームのプレーヤーがフォワード パスを支配している(ボールを捕った)状態でグラウンドに着地する前に、アウト オブ バウンズとなっている B チームのプレーヤーがそのボールに触っても、パス不成功とはならない。(4-2-3 変更)

#### (6) フリー キック前のボールの位置変更に関する規定の明確化

- ☆ 従来、フリー キックにおいて、レディ フォー プレーのシグナル後にボールの位置を変えることに関する規定はなかった。
- ★ 本年より、レディ フォー プレーのシグナル後は、タイムアウトがなければ、ボールの位置を変えることができない。ただし、タイムアウト(チーム タイムアウトまたはレフリー タイムアウト)の後には、レディ フォー プレーのシグナルの前までに、ボールの位置を変えることができる。(6-1-2 変更)

#### (7) フリー キック時のキックをキャッチする機会の妨害の反則に対する罰則

- ☆ 従来、キックをキャッチする機会の妨害の反則に対する罰則は、反則地点から 15 ヤードであった。
- ★ 本年より、フリー キックで、B チームの 25 ヤードより後方で有効なフェア キャッチ シグナルを出したプレーヤーに対するキックをキャッチする機会の妨害の反則に対する罰則は、B チームの 25 ヤードから科す。それ以外のキックをキャッチする機会の妨害の反則に対する罰則に変更はない。(6-4-1 追加)

#### (8) フェア キャッチ後のボールのハッシュ マーク間の位置

- ☆ 従来、B チームのプレーヤーがフェア キャッチしたとき、ボールはキャッチしたところでデッドとなり、その地点で B チームの所属となっていた。
- ★ 本年より、フリー キックで、B チームのプレーヤーが自己の 25 ヤード ラインよりも後方でフェア キャッチが成立した場合、タッチ バックのとき(主な編集上の変更項目(11))と同様に、ボールをプレーに移すチームがボールの位置を指定することができる。40 秒のプレー クロックが計時されている場合はそれが 25 秒となる前であれば、あるいはレディ フォー プレーの宣告によって 25 秒のプレー クロックが計時開始となる場合はレディ フォー プレーのシグナルの前であれば、ボールの位置を指定することができる。ボールの位置の指定がない場合は、次のプレーは両ハッシュ マークの中央で行われる。他のフェア キャッチ後のボールの位置に関する規定に変更はない。(6-5-1 変更)

#### (9) フリー キック時の無効なフェア キャッチ シグナル

- ☆ 従来、無効なシグナルの後のキャッチは、フェア キャッチではなく、ボールはキャッチまたはリカバーの地点でデッドとなり、その地点から B チームの所属となった。
- ★ 本年より、フリー キックで、B チームのプレーヤーが有効なフェア キャッチのすべての要件を満たさない手を振るシグナルを出し、その後自己の 25 ヤード ラインよりも後方でボールをキャッチした場合、ボールは B チームの 25 ヤード ラインで B チームに所属する。それ以外の無効なシグナルにおける規定に変更はない。(6-5-3 追加)

#### (10) トライ ダウン時のボールの位置

- ☆ 従来、トライのダウン時のボールの位置は、レディ フォー プレーの宣告の前であれば、ボールをプレーに移すチームが指定することができた。
- ★ 本年より、トライのダウン時に 40 秒のプレー クロックが計時されている場合は、それが 25 秒となる前であれば、ボールをプレーに移すチームが 3 ヤード ライン上またはその後ろのハッシュ マーク上またはその間の位置に指定することができる。レディ フォー プレーの宣告で 25 秒のプレー クロックが計時される場合は従来どおり、レディ フォー プレーの宣告の前に、ボールをプレーに移すチームがボールの位置を指定することができる。 (8-3-2 変更)

#### (11) タッチバック後のボールのハッシュ マーク間の位置

- ☆ 従来、タッチバック後のボールの位置は、レディ フォー プレーの宣告の前であれば、ボールをプレーに移すチームが指定することができた。
- ★ 本年より、タッチバック後に 40 秒のプレー クロックが計時されている場合は、それが 25 秒となる前であれば、ボールをプレーに移すチームがハッシュ マーク間の位置を指定することができる。レディ フォー プレーの宣告で 25 秒のプレー クロックが計時される場合は従来どおり、レディ フォー プレーの宣告の前に、ボールをプレーに移すチームがボールの位置を指定することができる。 (8-6-2 変更)

#### (12) 無防備なプレーヤー

- ☆ 従来、無防備なプレーヤーの例として、「ボールを投げようとしている、あるいは投げ終わった直後のプレーヤー」等の 10 事例が示されていた。
- ★ 本年より上記に加え、「疑わしい場合、プレーヤーは無防備である。」と規定された。 (9-1-4 注 2 追加)

#### (13) ラフイング ザ パサーの定義の明確化

- ☆ 従来、ラフイング ザ パサーの反則の 1 つとして、ディフェンスのプレーヤーは、明らかにボールが投げられた後は、パサーへの突き当たり、またはパサーをグラウンドに投げつけてはならないと規定されていた。
- ★ 本年より、従来のラフイング ザ パサー(パサーに対するターゲティングの反則を含む)に加えて、パサーの首または頭部への強力な接触(公式規則 9-1-4 の要求事項を満足しないもの)もラフイング ザ パサーの反則となることが明記された。 (9-1-9 追加)

#### (14) ラフイング ザ キッカーの反則に付帯する罰則規定の更新

- ☆ 従来、ラフイング ザ キッカーの反則に対する罰則は、プレビラス スポットから 15 ヤード、他の公式規則に抵触しない限り自動的に第 1 ダウンと規定されていた。
- ★ 本年より、上記に加え、ボールをキックする行為中あるいはキックした直後のキッカーに対する他のパーソナル ファウルも、プレビラス スポットから 15 ヤード、他の公式規則に抵触しない限り自動的に第 1 ダウンとなる。 (9-1-16 罰則 変更)

### (15) 資格没収となったヘッド コーチによる代わりのヘッド コーチの指名

☆ 従来、ヘッド コーチが資格没収となった場合、代わりのヘッド コーチの指名に関して規定されていなかった。

★ 本年より、資格没収となったヘッド コーチが、代わりのヘッド コーチを指名することもできる。

(9-2-6-e 追加)

### (16) リプレー オフィシャルによるターゲティングの反則のコール

☆ 従来、フィールド上の審判員によってコールされなかったターゲティングの極端な事例に対してのみ、リプレー オフィシャルはターゲティングの反則として判定することができた。

★ 本年より、フィールド上の審判員によってコールされなかったターゲティングに対して、それが明らかでかつはっきりとした事例である場合に、リプレー オフィシャルはターゲティングの反則と判定することができる。

(12-3-5 および 12-3-8 変更)

### (17) ニー プレスの規格の明確化

☆ 従来、治療及び予防のためのニー プレスは、パンツの下でその全体が完全に覆われていなければならなかった。

★ 本年より、治療及び予防のためのニー プレスは、パンツの下に装着し、硬い物質は全体が完全に覆われていなければならない。

(付録 E-5 変更)

## [3] 2018年度・公式規則変更

2018年度・公式規則変更内容の主要変更項目および編集上の変更内容に関わる条文は次のとおりです。この公式規則変更は2018年秋季公式戦より適用します。記載は、次の規則に従っています。

- ① 「篇一章一条」の後の(新規)、(追加)、(変更)、(削除)、(移動)は( )内の事項が行われた事を示し、それに続く規則文は新変更文である。なお、新規、追加、変更の各用語は次の原則で使用する。  
新規: 篇一章一条、あるいはその下位の項目の単位で、新規に条文が定められた場合。  
追加: 文の単位で新たに条文が定められた場合。  
変更: 一つの文の中で、条文の変更(単語等の追加を含む)が定められた場合。  
なお、新規、追加、変更、削除等が混在する場合は、変更として扱う。
- ② 下線部は、変更、追加が行われた場合にその部分を示す。削除に関しては削除された部分を<>で囲み、削除文字上に二重線を引いてある。
- ③ 新規の条文の発生、および削除に連動した既存の「篇一章一条」およびその下位の項目の番号の変更に関しては、原則として、この決定報に記載していない。
- ④ 他の規則との関係、見易さの向上等のため、競技規則の変更がない場合も、多くの記載場所、編集上の変更を行っている。異なる篇へ記載が変わった場合について、(移動)と記し、【注:……】という形式で内容を記載している。

- 1-2-1-f-2 (変更) これらの装飾は、ハッシュ マークまたは標示数字に触れても含んでもならない。
- 1-2-1-f-3 (新規) 50ヤード ラインを中心とした装飾が1つと、それよりも小さな装飾がまわりに4ヶ所まで許される。
- 1-2-1-h-2 (変更) 商業組織体または個人が施設の命名権を保有している場合、《フィールド上の2ヶ所までその名前を描いてもよい。しかし、その商業組織体のロゴを描いてはならない。》商業組織体または個人の名称あるいは商業ロゴをフィールドの中心以外の場所に2ヶ所まで描くことが許される。これは1-2-1-fの4ヶ所の装飾の内の2ヶ所としてカウントされる。
- 1-4-5-a-2 (追加) ジャージにはプレーヤーの番号以外に、以下のものを付けることができる。
- プレーヤー名
  - チーム名
  - マスコットの名前
  - 袖のストライプ
  - チーム章、競技団体の標章、マスコットのマーク、試合の記念章、追悼の標章
  - チーム章、競技団体の標章の一部としての卒業認定または学術認定の印
  - チーム キャプテンを示すための「C」の文字
  - 国旗
- 1-4-11-c 例外3 (変更)
- 《アンパイヤー》運営団体および参加チームに事前承諾された、《アンパイヤー》審判員のキャップに取り付ける音声装置のないカメラ。
- 1-4-11-c 例外5 (追加)
- チーム エリアに入ることができる60名までのチーム関係者の一員として許可された1名のビデオ撮影者。このビデオ映像は、その試合の生放送またはデジタル ストリーミング放送に使用してはならない。
- 1-4-12 (変更) コーチ用通話器、ヘッドセットおよび通信機器
- 試合前および試合中、コーチが使用する《電話およびヘッドセット》通話器、ヘッドセットおよび通信機器は、公式規則の罰則の適用外である。
- a. コーチのヘッドセットが故障した際の対応について、競技団体は指針を策定することができる。
  - b. 試合の運営管理下において、各チームは以下のようなガイドラインに沿って、最大20台のヘッドセットを使用することができる。
    1. 15台のヘッドセットは、コーチングを目的としてコーチおよびそのアシスタントが使用しても良い。コーチング ブースには、コーチおよびそのアシスタントのみ入ることができる。(例外: 通信関連技術者1名)
    2. 4台のヘッドセットは、登録選手が使用できる。
    3. 最後の1台は、コーチング以外の目的のために、フィールドで使用できる。
    4. 医療、ゲーム オペレーター、警備関係者などのスタッフに使用されるヘッドセットは、コーチングを目的とした通信とは別の回線であれば、この制限外となる。



5. チーム エリアおよびコーチング ブースで、通信技術者各1名は、20台とは別にコーチ用ヘッドセットと連携し、通信をモニターしたり、技術的な問題を対処することができる。

- 2-19-2-b (変更) Aチームのプレーヤーがボールを保持しており、ニュートラル ゾーンに向かってフォワード パスをしようとしている場合、そのプレーヤーがしっかりとボールを支配した状態での、手《または腕》の前方への意図的な動きは、すべてフォワード パスの開始とみなされる。この前方への動きが始まった後に、Bチームのプレーヤーがパサーまたはボールに接触し、ボールがパサーの手から離れた場合、ボールがグラウンドまたはプレーヤーに当たった場所に関係なくフォワードパスとして扱われる。(A. R. 2-19-2- I)
- 3-2-4-c-7 (変更) フリー キック以外のキックのダウンの後
- 3-2-4-c-8 (変更) 6点のタッチダウン以外の得点
- 3-2-4-c-9 (新規) トライのダウンの後  
(以降、項目番号は順に繰り下がり)
- 3-4-3 (変更) レフリーは計時に関して幅広い権限を持つ。いずれかのチームが明らかに不正な戦術によってプレー時間を節約または消費しようとしているとき、レフリーは自己の判断により、ゲーム クロックまたはプレー クロックを動かしたりは止めてよい。これには、得点が多いチームが反則を行った場合に、スナップから計時を開始することを含む。前後半終了2分《以内》未満で、得点が多いチーム(もし同点の場合はどちらかのチーム)の反則に対する罰則施行《~~は~~》のためにゲーム クロックが停止したとき、被反則チームはスナップからの計時開始を選択することができる。Aチームが時間を節約するために不正なフォワード パスまたはバックワード パスを投げた場合、ゲーム クロックはレディ フォー プレー のシグナルで計時を開始する。(参照: 3-3-2-e-14) (A. R. 3-4-3- I ~ V)
- 4-2-3-a (変更) フィールド ゴール《~~を~~得点した》の得点となったキックを除き、プレーヤー《の確保下でない》が支配していないボールは、アウト オブ バウンズのグラウンド、プレーヤー、試合の審判員、または他のいかなるものにでも接触した場合に、アウト オブ バウンズとなる。あるいはプレーヤーおよび試合の審判員以外の、境界線上もしくはその外側のグラウンドまたは他のいかなるものにでも接触した場合に、アウト オブ バウンズとなる。
- 6-1-2-a (追加) フリー キック フォーメーション時のボールは、ハッシュ マーク上またはその間の、Aチームの制限線上から正當にキックされなければならない(例外: 6-1-2-c-4)。レフリーは、キッカーがボールを受け取った後、全審判員が用意できたときに、レディ フォー プレーを宣告する。レディ フォー プレーのシグナルの後、タイムアウトの後でボールの位置を変えることができる。レディ フォー プレー後、いかなる理由であってもボールがティーから落ち始めた後、Aチームはボールをキックしてはならず、また審判員は直ちにホイッスルを吹かなければならない。
- 6-4-1罰則(追加) ゴール ライン間の反則(フリー キックで、Bチームの25ヤードより後方で有効なフェア キャッチ シグナルを出したプレーヤーに対する反則を除く):  
妨害の反則に対して、反則地点から15ヤード、およびレシーブ チームのボールで第1ダウン。

[S33]

フリー キックで、Bチームの25ヤードより後方の有効なフェア キャッチ シグナルを出したプレーヤーに対する反則:

Bチームの25ヤードから罰則を科す。[S33]

ゴール ライン後方での反則:

タッチバックが与えられ、サクシーディング スポットから罰則を科す。

ひどい反則者は資格没収。[S47]

- 6-5-1-a (追加) Bチームのプレーヤーがフェア キャッチしたとき、ボールはキャッチしたところでデッドとなり、その地点でBチームの所属となる。(例外:フリー キックをBチームのプレーヤーが自己の25ヤード ラインよりも後方でフェア キャッチした場合、ボールはBチームの25ヤード ラインでBチームに所属する。次のスナップは、プレー クロックが25秒になる前、またはレディ フォー プレーのシグナルの前に、ボールをプレーに移すチームが両ハッシュ マークの間の別の地点を選択しない限り、両ハッシュ マークの中央で行わなければならない。プレー クロックが25秒になった後、またはレディ フォー プレーのシグナルの後では、Aチームの反則あるいはオフセッティング ファウルが起きない限り、チーム タイムアウトの後でボールの位置を変更できる。)
- 6-5-1-b (追加) Bチームのプレーヤーが有効なフェア キャッチのシグナルをした場合、フリー キックやスクリーン キックのキャッチの保護は、キックをマフしたが、まだキックをキャッチする機会のあるプレーヤーにも継続される。もしこのプレーヤー(あるいはBチームの別のプレーヤー)がその後キックをキャッチした場合、ボールはこのプレーヤーが最初にボールにタッチした位置に置かれる。この保護はキックがグラウンドにタッチしたときに終了する。(A. R. 6-5-1- I および II)
- 6-5-1-e (変更) ボールがキャッチされた場合、ボールはキャッチの地点でレシーブ チームのスナップによってプレーに移される。(例外: 6-5-1-a、6-5-1-b、7-1-3および8-6-1-b)
- 6-5-3-a (追加) 無効なシグナルの後のキャッチは、フェア キャッチではなく、ボールはキャッチまたはリカバーの地点でデッドとなる。(例外:フリー キックで、Bチームのプレーヤーが有効なフェア キャッチのすべての要件を満たさない手を振るシグナルを出し、その後自己の25ヤード ラインよりも後方でボールをキャッチした場合、ボールはBチームの25ヤード ラインでBチームに所属する。)
- 8-3-2-a (追加) ボールは、タッチダウンの6点を得点したチームによってプレーに移される。タッチダウンとなったダウン中に第4節が終了し、トライの結果が試合の勝敗に影響しない場合、トライは行わない。(例外: 第4節の終了時にタッチダウンをしたチームは、1点または2点差でリードしている場合、トライを実施しないことを選択できる。)
- 8-3-2-c (変更) スナップは、相手の3ヤード ライン上で両ハッシュ マークの中央で行うか、または「~~レディフォープレーシグナルの前に~~」プレー クロックが25秒になる前、あるいはレディ フォー プレーが宣告される前に、ボールをプレーに移すチームが位置を指定すれば、ボールの位置を3ヤード ライン上またはその後ろのハッシュ マーク上またはその間のどこから行ってもよい。また、チーム タイムアウトの前にAチームの反則やオフセッティング ファウルがなければ、Bチームの反則の後またはいずれかのチーム タイムアウトの後に、その位置を変更することができる。(参照: 8-3-3-aおよび8-3-3-c-1)

8-6-2 (変更) タッチバックが宣告された後は、そのゴール ラインを守っていたチームの20ヤード ラインで、そのチームのボールとなる。ただし、フリー キックがタッチバックとなった場合は、25ヤード ラインで、Bチームのボールとなる。ボールはハッシュ マーク上またはその間でスナップによりプレーに移される。(例外: 超過節の規則)スナップは、《レディフォープレーの前に》プレー クロックが25秒になる前、あるいはレディフォープレーが宣告される前に、ボールをプレーに移すチームが両ハッシュ マークの間の別の地点を選択しない限り、両ハッシュ マークの中央で行わなければならない。レディフォープレーの後では、Aチームの反則あるいはオフセティングファウルが起きない限り、チーム タイムアウトの後でボールの位置を変更できる。

9-1-4 注2 (追加) 無防備なプレーヤー:(参照:2-27-14) 疑わしい場合、プレーヤーは無防備である。無防備なプレーヤーは、次に示すような例を含むが、これらに限定されるものではない。  
(以下、省略)

9-1-6-a (変更) チーム確保変更前のAチームのプレーヤー:  
最初の位置が完全にタックル ボックスの中に入っているラインマンは、ボールがタックル ボックスから出るまでの間、タックル ボックスの中で正当に腰より下へのブロックをしてもよい。他のすべてのAチームのプレーヤーは、最初の接触の力が「正面の方向から」の腰より下へのブロックだけが許される。「正面の方向から」とは、ブロックを受けるプレーヤーが注意を払うことができる前面で、時計の文字盤の「10時から2時」で表わされる範囲からと定義される。

~~《1. ボールがタックル ボックス内にある間、次のプレーヤーは、タックル ボックスを離れるまで、正当に腰より下へのブロックをしてもよい。タックル ボックスに完全に入っているラインマン、およびタックル ボックスに一部でも入っていて、かつ少なくともスナッパーから2人目のラインマンの体のフレームより内側に一部でも入っていて、静止しているバック。(A. R. 9-1-6-V)》~~

~~《2. 下記3および4で記載された場合を除き、ボールがタックル ボックス内にある間で上記1.で規定されていないすべてのプレーヤー、およびボールがタックル ボックスを出た後のすべてのプレーヤーは、最初の接触が「正面の方向から」の腰より下へのブロックをしてもよい。「正面の方向から」の定義は、ブロックされるプレーヤーの正面「時計の文字盤の10時から2時」の範囲である。例外は以下3および4.に規定する。(A. R. 9-1-6-I ~ II、IV、VIIおよびVIII)》~~

例外:

1. Aチームのプレーヤーは、ニュートラル ゾーンを5ヤードまたはそれを越えた位置で腰より下へのブロックをしてはならない。

~~《3.》~~ 2. 《上記1.で規定されていないプレーヤーは、ボール キャリアが明らかにニュートラル ゾーンを越えるまでの間、》スナップ時にタックル ボックスの外側に位置しているプレーヤー、スナップ時にモーションしているプレーヤー、あるいはスナップ後にタックル ボックスの外側に出たプレーヤーは、スナップ時のボールの方向に対して、腰より下へのブロックをしてはならない。

~~《4.》~~ 3. 一度ボールがタックル ボックスを出た後、オフenseのすべてのプレーヤーは、自陣のエンド ラインの方向に腰より下へのブロックをしてはならない。(A. R. 9-1-6-III)

9-1-9-a (変更) ディフェンスのプレーヤーは、明らかにボールが投げられた後 ~~は、パサーへの突き当たり、またはパサーをグラウンドに投げつけてはならない。(例外: Aチームのプレーヤーによってブロックされたディフェンスのプレーヤーが、パサーとの接触を避ける機会がなかった場合。しかし、この章の他の部分で定められているパーソナルファウルに対するディフェンスのプレーヤーの義務は遵守しなければならない。)(A.R. 2-30-4-I および II、A.R. 9-1-9-I および A.R. 10-2-2-X III)~~ 、パサーに対して不必要に乱暴な行為をしてはならない。以下に掲げる行為は不正である。ただし、これらに限定されるものではない:

1. 公式規則9-1-3および9-1-4に記載されるターゲティングの反則となる行為。
2. 公式規則9-1-4の要求事項を満たしていないが、首または頭部への強力な接触。(公式規則9-1-2で規定する行為を含む)
3. パサーの手から明らかにボールが離れた後で、接触が避けられる状況で強力な接触を行った場合。(例外: Aチームのプレーヤーによってブロックされた影響で、ディフェンスのプレーヤーがパサーとの接触を避けられなかった場合。ただし、ディフェンスのプレーヤーの行為が、この章に記載されるパーソナルファウルに該当する場合は、その責任まで免責とはならない。)
4. パサーを痛めつけようとして、グラウンドにたたきつけたり、身体を乗せたりする行為。
5. この章に記載されるパーソナルファウルに該当する行為。

9-1-11-b (変更) ~~「ディフェンスのプレーヤーが、明らかにフィールドゴールやトライをブロックしようとして、ニュートラルゾーンの前から走ってきて、リーピング(前方に跳ぶこと)したりハードリングすることは」~~ フィールドゴールやトライをブロックするために、ディフェンスのプレーヤーが前進して、相手プレーヤーの身体の上をリーピング(前方に跳ぶこと)しようとしてジャンプした場合は、反則である。ボールがスナップされたときに、プレーヤーがスクリメージラインから1ヤード以内に静止していた場合は、反則とはならない。

9-1-11-c (変更) パントをブロックするために、ディフェンスのプレーヤーは ~~「はタックルボックス内で相手プレーヤーを飛び越えようとしてジャンプしてはならない。」~~ が、タックルボックス内で相手プレーヤーの身体の上をリーピングしようとしてジャンプした場合は、反則である。

1. 相手プレーヤーを飛び越える意図なく、垂直にジャンプしてパントのブロックを試みることは反則ではない。
2. 相手プレーヤーの隙間(ギャップ)を飛び越える行為は反則ではない。

9-1-16-a, b 罰則 (変更)

ラフリング ザ キッカー/ホルダー、またはボールをキックする行為中あるいはキックした直後のキッカーに対する他のパーソナルファウル: プレビアス スポットから15ヤード。他の公式規則に抵触しない限り自動的に第1ダウン。[S27あるいはS38およびS30]

ランニング イントウ ザ キッカー/ホルダー: プレビアス スポットから5ヤード。[S30]

9-2-6-e (新規) 資格没収となったヘッドコーチは、代替りのヘッドコーチを指名することができる。

10-2-5-d (変更) フィールドゴールプレー中のライブボール中の反則に対する罰則は、公式規則に従って施行される。《成功したフィールドゴールで得点を得るためには、AチームはBチームのライブ

ボール中の反則の罰則を辞退しなければならない。Aチームは、Bチームのライブ ボール中の反則に対する罰則を受諾し、成功したフィールド ゴールの得点を辞退し、プレビアス スポットからの罰則施行を選択してもよい。》フィールド ゴールが成功した場合、Aチームは、成功したフィールド ゴールの得点を辞退し、Bチームのライブ ボール中の反則に対する罰則をプレビアス スポットから施行する。あるいはBチームのライブ ボール中の反則に対する罰則を辞退して得点を得る。成功したフィールド ゴール プレー中のBチームによるパーソナル ファウルまたはスポーツマンらしからぬ行為の反則に対する罰則は、得点を得て次のキック オフまたは超過節のサクシーディング スポットで施行することができる。デッド ボール中の反則として扱われるライブ ボール中の反則、およびフィールド ゴールのダウン後のデッド ボール中の反則に対する罰則は、サクシーディング スポットで施行する。

- 12-3-5-b (変更) フィールド上の審判員によってコールされなかった《ターゲットイングの極端な事例に対してのみ》明らかでかつはっきりとしたターゲットイングに対して、リプレー オフィシャルはターゲットイングの反則と判定することができる。このレビューは、コーチのチャレンジによって始めることはできない。
- 12-3-6-c (新規) 前後半の残り時間1分未満の状況で、インスタント リプレーによるレビューの結果フィールド上での判定が変更(リバース)され、正しい判定ではゲーム クロックの計時が停止されない場合、レフリーは10秒減算を行い、レフリーのシグナルでゲーム クロックの計時を開始する。いずれのチームもチーム タイムアウトを使うことで、10秒減算を避けることができる。
- 12-3-8-h (変更) 《明白かつ極端な》明らかでかつはっきりとしたターゲットイングの反則。(参照:12-3-5-b)
- 12-4-3-a (追加) リプレーのプロセス中にプレーをレビューするすべての装置、およびその装置を使用する担当者の場所は、プレス ボックスの中で、外部から遮断され、セキュリティが保証されたところで行なければならない。この場所は、インスタント リプレーに直接関係ない人が使用できたり、入れたりしてはならない。公式規則第12篇を遵守するのであれば、実験的な試みとして、インスタント リプレーのレビューの実施をスタジアム内のプレス ボックスに限定せず、離れた場所での実施が可能である。
- 付録E-5 (変更) 治療及び予防のためのニー プレスは、パンツの下《でその》に装着し、硬い物質は全体が完全に覆われていなければならない。

## 【ユニフォームと装具に関する公式規則】



【以下は、公式規則解説書の追加・変更項目である。】

### 第1条 規格と装飾

#### A. R. 1-2-1

- I. 商業組織体または個人がスタジアムの命名権を購入し、別の法人組織体がフィールドの命名権を購入した。  
判定: もし両組織体の装飾をフィールドに描く場合、それぞれの商業組織体の名称、商業フォントまたは商業ロゴを利用可能な4ヶ所の内の1ヶ所に装飾し、合計2ヶ所とする。

### 第2条 フォワード パスとバックワード パス

#### A. R. 2-19-2

- I. A1がフォワード パスを投げようと試みたが、A1の手が前方へ動く前に、B1がA1の手からボールをたたき落とした。判定:ファンブル。(参照:2-11-1)

### 第3条 超過節

A. R. 3-1-3

- XII. 超過節の表のポゼッション シリーズでA12がフォワード パスを投げたが、Aチームが不正なシフトの反則をした。B25がパスをインターセプトしたが、B25がAチームのゴール ラインを越える前にB38が(a) クリッピング (b) ひどいパーソナル ファウルの反則を犯した。判定:得点は認められない。2つの反則は取り消しとなり、ダウンは繰り返さない。Aチームのポゼッション シリーズは終了し、(a) Bチームは25ヤード ラインから自己のポゼッション シリーズを開始する; (b) B38は資格没収となり、Bチームは40ヤード ラインから自己のポゼッション シリーズを開始する。

### 第4条 計時装置

A. R. 3-2-4

- III. Aチームがタッチダウンした後、プレークロックの40秒計時が開始された。試合を止めることなくレビューをしていたリプレー オフィシャルからレフリーに、タッチダウンの判定が確認できたと伝えられた。この時点でプレークロックは、(a) 25秒以上残っていた、(b) 24秒以下であった。判定:(a) レフリーはセンター ジャッジに下がってよいという合図を出し、スナップが開始できる状態にする。(b) レフリーはプレー クロックを25秒にセットするシグナルを出した後、センター ジャッジに下がってよいという合図を出し、スナップが開始できる状態にする。
- IV. Aチームがタッチダウンした後、プレー クロックの40秒計時が開始された。プレー クロックが24秒以下となった時に、Aチームのヘッド コーチまたはキャプテンからボールを左ハッシュに置きなおしてほしいとの要求があった。判定:この要求は認められない。Aチームの反則またはオフセッティング ファウルがなければ、Aチームはタイムアウトを使うことでボールの位置を移動することができる。

### 第3条 不正なクロック戦術

A. R. 3-4-3

- VI. Aチームの25ヤード地点で第2ダウン、7ヤード。第2節の終盤でAチームが試合をリードしている。ボール キャリアA22がフィールド オブ プレーでタックルされたとき、ゲーム クロックは残り1分47秒であった。アンパイヤは、スナッパーA55のホールディングをレフリーに報告した。このプレーで、A22は、(a) 3ヤード、(b) 9ヤード進んだ。判定:(a) (b)いずれの場合も罰則施行後、ゲーム クロックはBチームの選択によって、スナップまたはレフリーのシグナルで計時を開始する。

### 第3条 ボールがデッドを宣告される場合

A. R. 4-1-3

- IV. Aチームはフリー キックのため35ヤードに並び、オンサイド キックを蹴った。ボールが10ヤード飛んだ後:(a) B21が正当なフェア キャッチ シグナルを出してボールをキャッチした。(4-1-3-g): (b) A80が最初にボールにタッチして、正当にしっかりとキャッチまたはリカバーした。(4-1-3-e): (c) B21がボールをキャッチまたはリカバーした直後にグラウンドに倒れた。判定:(a) ゲーム クロックの計時は開始されない。(b) ゲーム クロックの計時は開始されない。(c) 計時員は正当にボールがタッチされた際にゲーム クロックの計時を開始し、ボール デッドが宣告された際に計時を止める。(3-3-2-a)

### 第3条 ルース ボールのアウト オブ バウンズ

A. R. 4-2-3

- I. A88は空中に飛び上がっている間にA12からのフォワード パスをしっかりと支配した。A88は右足がインバウンズに着地した後にグラウンドへ倒れたが、ボールをしっかりと支配し続けた。A88が空中でしっかりとボールを支配している間に、アウト オブ バウンズに立っていたB28がボールにタッチした。 判定:フォワード パスの成功

第2条 フリー キック フォーメーション

A. R. 6-1-2

- VIII. 試合終了間近に同点の状況で、Aチームは自陣35ヤード ラインからフリー キックのフォーメーションについた。キッカーA10は明らかなオンサイド キックのために、右のハッシュにボールを置いた。レフリーのレディ フォープレーのシグナルの後、A10はボールに近づいてそれを拾い上げ、自陣35ヤードの左ハッシュに走っていき、ボールを置いて、すぐにキックを行った。Aチームは、転がったボールを自陣46ヤード ラインで正当にリカバーした。ボールをキックした時に、Aチームはキッカーの両サイドに少なくとも4人のプレーヤーがいなければならないという条件を満たしていた。 判定:Aチームの選択によって一度ボールがハッシュ マーク間に置かれ、レディ フォー プレーとなった後は、タイムアウトの後でなければ、ボールの位置を変えることはできない。ライブ ボール ファウル。プレビアス スポットから5ヤードの罰則で、キックを蹴りなおす。もしBチームがAチームの46ヤード ラインでリカバーしていたとしたら、Aチームの46ヤード ラインから5ヤードの罰則を施行した後で、Bチームはボールをスナップすることも可能である。

第1条 キャッチの地点でデッド

A. R. 6-5-1

- I. 有効または無効なシグナルの後、B1がパントをマフし、シグナルを出していないB2がキックをキャッチした。 判定:B2がボールをキャッチしたときにボールはデッドとなり、ボールはB1が最初にボールにタッチした地点に置かれる。
- III. フリーキックの間に、B21は自陣5ヤード ラインでフェア キャッチのためのシグナルを出した。B21はキックをマフしたが、直ちに自陣5ヤード ラインでボールをリカバーした。 判定:フェア キャッチは成立していない。Bチームのボール。Bチームの5ヤード ラインで第1ダウン、10ヤード。

第3条 無効なシグナル:キャッチまたはリカバー

A. R. 6-5-3

- VI. フリー キックが空中にある間にB21は手を振るシグナルを出したが、そのシグナルは有効なフェア キャッチのシグナルとしてのすべての条件を満たしているものではなかった。ボールは、(a) B21によって自陣5ヤード ラインでキャッチされた。あるいは(b) B44によって自陣5ヤード ラインでキャッチされた。 判定:ボールは、キャッチされた時にデッドとなる。(a)Bチームのボール。Bチームの25ヤード ラインで第1ダウン、10ヤード。(b)Bチームのボール。Bチームの5ヤード ラインで第1ダウン、10ヤード。

第6条 腰より下へのブロック

A. R. 9-1-6

- I. エンドA1は、スナップ時にスナッパから11ヤード離れて左側に位置していた。B2はA1の最初の位置とサイドラインの間にいた。A1がスナップ時のボールの位置と反対の方向にB2をブロックした。A1のブロックは、B2の腰より下で正面の方向からであり、スクリメージ ラインから5ヤード以内だった。 判定:相手の正面の方向からのブロックであり、スクリメージ ラインから5ヤード以内であるため、正当なブロック。
- IV. A82は、スナップ時にスクリメージ ライン上で、フォーメーションの右にスナッパから10ヤード離れて位置し



た。フォーメーションの左でフランカーの位置にいたバックA31は、味方からのボールを受けた後、右側深くリバースした。プレーが進んでいる間、A82はラインバッカーB62をスナップ時のボールの方向にブロックした。A82のブロックは腰より下へのブロックだったが、明らかに「10時から2時」の範囲に入る正面からであった。そのブロックは、(a) ダウンフィールドの5ヤード以内であった。(b) ニュートラルゾーンから5ヤードを越えていた。判定:(a) 不正なクラックバック ブロック。腰より下へのブロックは、スナップ時のボールの方向に対するものであった。15ヤードの罰則。(b) 腰より下への不正なブロック。15ヤードの罰則。

- V. バックA41はスナップの瞬間、左右同人数のラインの右タックルの真後ろで静止していた。彼の左肩はタックルボックスの内側にあった。クォーターバックはA22にボールを手渡し、A22は真っ直ぐ走った。A22がスクリメージラインに達する前に、A41はタックルしようとしてオフェンスのバックフィールドに侵入してきたB2をブロックした。ブロックは腰より下に対して、明らかに横からだった。判定:不正なブロック。A41は体の一部がタックルボックスの中に入っていて、スナップの瞬間に2番目のラインマンの後ろにいたが、ブロックは正面の方向からではなかった。
- VII. バックA22は、スナップ時にタックルボックスの内側で静止していた。スナップ後、A22は自分のサイドのタックルとガードの間を飛び出し、(a) スクリメージラインから5ヤード以内で、(b) スクリメージラインから5ヤードを越えたところで、ラインバッカーB55に対して腰より下へのブロックを行った。ブロックはA22が前方に向かう方向であったが、B55の横から腿に接触した。判定:(a)、(b)ともに腰より下への不正なブロック。A22の最初のポジションはタックルボックス内のラインではなかったため、「10時から2時」の範囲外への腰より下へのブロックをしてはならない。15ヤードの罰則。
- VIII. Aチームの30ヤードラインで第3ダウン、7ヤード。ボールは左のハッシュマーク上に置かれていた。バックA22は、左タックルの身体の前側の完全に外側にいて、B40がそれに合わせて外へ動いた。バックA44がハンドオフを受け取り、右エンド方向へスウィープした。プレーが進むのに合わせてB40が動き、A22は彼を追いかけた。Aチームの40ヤードラインの右ハッシュより外側でA22はB40に追いつき、明らかに真正面(10時から2時の方向)から腰より下へのブロックをした。ブロックの方向は、ダウンフィールド方向、わずかに右サイドライン方向だった。A44はBチームの45ヤードラインでタックルされた。判定:腰より下への不正なブロック。相手の正面へのブロックではあるが、ニュートラルゾーンから5ヤードを越えている。

#### 第16条 ラフティングおよびランニング イントウ ザ キッカー/ホルダー

A. R. 9-1-16

- VII. パンターA22はニュートラルゾーンの後方15ヤードに位置している。ロングスナップをキャッチし、スクリメージラインに向かって右斜めにダッシュし、タックルボックスから外に走り出た。それから止まってボールをパントした。そして(a) 直ちに飛び込んできたB89によりヒットされた。(b) 直ちにB89によりヒットされ、B89はターゲティングであった。判定:(a) 正当なプレーであり、B89は反則をしていない。A22はタックルボックスの外へボールを持ち出したことによりラフティングやランニングイントウザキッカーの保護を失う。(b) キッカーがタックルボックスの外に出たとしても、ターゲティングは反則であり、罰則はプレビアススポットから施行される。

#### 第3条 ひきょうな行為

A. R. 9-2-3

- II. Aチームは9点差で負けており、ゲームクロックは残り0分35秒で、Bチームの22ヤードで第1ダウン10ヤードだった。スナップの時、B21、B40とB44は、あからさまにホールディングをし、Aチームのレシーバーを両腕で抱きかかえ、彼らをグラウンドに引き倒した。クォーターバックA12は、ルート上にいるレシーバーが見つからず、スクランブルして正当にボールを投げ捨てた。このプレーの後、ゲームクロックは0分26秒だった。バックジャッジ、フィールドジャッジ、サイドジャッジはそれぞれのキーのBチームのプレーヤーにフラッグを投げた。判

定:これは時間を消費させるためのあからさまで明らかにひきょうな行為である。レフリーはホールディングの反則をスポーツマンらしからぬ行為の反則に変更する。ゴールまでの半分の距離の罰則を科す。AチームはBチームの11ヤードで第1ダウン10ヤードになる。ゲーム クロックは0分35秒に戻され、次のスナップで計時を開始する。B21、B40、B44はそれぞれスポーツマンらしからぬ行為の1回分がカウントされる。

- Ⅲ. Aチームは4点差で勝っており、ゲーム クロックは残り0分14秒で、Aチームの30ヤードで第4ダウン10ヤードだった。ショットガン隊形から、A12はスナップを受けて自陣のゴール ライン方向へ下がり、タックル ボックスの外に出た。スナップ後、Aチームのラインマンはそれぞれの前にいたBチームのプレーヤーをあからさまにホールディングし、ディフェンスのラインマンがパサーに向かってすぐにラッシュできないようにした。ラッシュしたプレーヤーがA12に近づいたとき、彼はボールをスクリーメージ ラインを越えたアウト オブ バウンズに向かって高く投げ上げた。パスがグラウンドに落下したとき、ゲーム クロックは残り0秒になっていた。アンパイヤ、(いる場合は)センター ジャッジ、レフリーがAチームのホールディングに対してフラッグを投げた。判定:これは時間を消費させるためのあからさまで明らかにひきょうな行為である。レフリーはホールディングの反則をスポーツマンらしからぬ行為の反則に変更する。Aチームにプレビアス スポットから15ヤードの罰則を科す。AチームはAチームの15ヤードで第4ダウン25ヤードになる。ゲーム クロックは0分14秒に戻され、次のスナップで計時を開始する。Aチームのラインマンはそれぞれスポーツマンらしからぬ行為の1回分がカウントされる。

#### 第6条 資格没収選手およびコーチ

A. R. 9-2-6

- I. キックオフからのロング リターン中に、キック チームのヘッド コーチがフィールド オブ プレーに入ってきて、レシーブ チームのホールディングに対して「フラッグを出せ！」と激しく怒りながら抗議をしてきた。判定:ヘッド コーチに対するスポーツマンらしからぬ行為の反則。デッド ボール中の反則として施行する。サクシーディング スポットから15ヤードの罰則。ヘッド コーチに対するスポーツマンらしからぬ行為の反則の1回としてカウントする。ヘッド コーチによる2回目のスポーツマンらしからぬ行為の反則であれば、ヘッド コーチはその試合の資格没収となる。資格没収となったヘッド コーチは、新たなヘッド コーチを指名してもよい。

#### 第5条 タッチダウン、フィールド ゴールまたはトライの、それぞれの間またはその後の反則

A. R. 10-2-5

##### Aチームのタッチダウンあるいはフィールド ゴール プレー中に起きた反則

- VII. 成功したフィールド ゴール中に、Bチームが反則をした。判定:Aチームは、得点を取り消し、プレビアス スポットからの罰則を受諾してダウンを繰り返すか、または罰則を辞退して得点を得るかを選択できる。パーソナル ファウルおよびスポーツマンらしからぬ行為の反則に対しては、Aチームは得点を得て、その罰則を次のキックオフまたは超過節のサクシーディング スポットで科すことができる。

チーム確保の変更がないトライ中の反則(デッド ボール中の反則として施行されるライブ ボール中の反則、またはロス オブ ダウンを伴う反則を除く)

- XI. 成功したトライ中に、Bチームが反則をした。判定:罰則の施行後にトライを繰り返すか、公式規則によって罰則は辞退される。パーソナル ファウルおよびスポーツマンらしからぬ行為に対する罰則は、次のキックオフまたは超過節のサクシーディング スポットで科すことができる。(参照:8-3-3-b-1)

以上